十五日夕刊

磐城新聞

休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料 二行五十錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

噴火山上の民政黨（三）

▼綱紀問題と純潔分子▲

森田代議士

本稿は民政黨を脱黨した森田代議士が今回公にせる民政黨の內容である。

私が綱紀粛正に付て民政黨に對して、忌憚なき批評を爲しつゝあることゞ付て舊政友本黨系の代議士諸氏は大に迷惑して居るのであらう。此問題は諸氏には何等の關係のないことである事實は殆んど皆舊政會員中の醜惡分子に關係するものであるが、兩黨合して民政民政黨に關する綱紀紊亂事件として之を取扱ふの外はないのである。諸君の迷惑は御察し致す次第であるが諸君の居場所が頗る惡るく不良奸惡の徒と黨籍を同ふせらるゝが故に、攻擊の飛沫が諸君に袂に掛かることは、事情止むを得ないのである。又之が爲に將來諸君の選擧運動其他政治上の運動に多少の障碍を與ふることがあるかも知れぬが、諸君が空粗なる憲政常道論を是認して、次の政權が民政黨に來るものと過言しまよもや引かされて踏留つて居らるゝ間は、相當の迷惑も苦痛を受けることも忍ばねばなるまい。民政黨は諸君に對して故郷の山河にあらず。云はば憲本合同の寄合世帶にして、旅行者が驟雨に遭ひて一所に雨宿りをしたる程度に過ぎず。主義政見を同ふすれば格別、然らざる限りは其處に斷つべからざる愛着の羈絆があるわけではない。政界天地は廣く、諸君の政治的生命は悠久である。先輩床次氏が一度政黨を作りたる憲政會以來の黨弊を根絶する能はずと觀念し、官僚の雰圍氣を厭ふて脱黨して、政界の新天地を開拓すべく發足した。床次氏の此行は一人以て千萬人の敵に當らんとする概がある。諸君は床次氏、心ゆき頼み民政黨

過去に鑑み且現在に徴し、愼重に考慮して、その進退を決すべしである。

私は更に純潔なる舊憲政會員に告ぐ、憲政會は立黨以來綱紀粛正を標榜して、政友會に對して奮闘したその結果東京市民を始めとし全國各大都會の市民は憲政會を應援し、各大都市は憲政會の地盤となつた。過去十餘年、此奮鬪努力は、憲政會の爲に最も光輝ある歷史を作つたのである。然るに此名譽ある歷史は板船事件に端を發したる東京市の大疑獄の爲に抹消されて了つた。今や民政黨は東京市に於て全然信用を失墜し

。東京市民は何時までも此疑惑を恕すものではない。此疑獄の貴き教訓に依つて必ず覺醒するであらう。その結果彼等は民政黨の前身たる憲政會の爲に愚弄せられたことを憤慨し、次期の總選擧には、民政黨が標榜する議員候補者の當選を妨害すべく大に奮闘努力するであらう。而して斯かる運動を起すに付て常に思慮が缺き驕虎の勢に乘ずる東京市民は、玉石を混淆し、純眞無垢なる候補者と雖も民政黨に屬するの故を以て一律一體に當選を妨害すべき手段を執るであらう。

私は東京市政が民政黨所屬の[illegible]若干員の爲に腐敗したることを頗る遺憾に思ふと同時に、市政に何等の關係を有せざる代議士までが疑獄の渦中に在るが如く涉決せられつゝあることに對して同情の念を禁ずることが出來ない。彼等の中には二三知名の紳士がある。斷じて惡事に加擔し、若くは之に感染する人にあらず。雖も、黨籍を共にするの故を以て累もすれば誤解を受くることあるは、洵に氣の毒の至りである。彼等にして若し此時局に感憤して政界を引退すれば止む若し然らずして引續き其職に留つて國家に盡さんとせば、政界の何處にか安住の地を求めて、此不快なる雰圍氣より脱出することが頗る賢明なる策であらう。私は明るき過去を有し、尙若干望みある未來を有する此等の政治家に對して愼重に考慮せんことを望まざるを得ないのである。

明日の吉凶

舊曆八月三日　新曆九月十六日

▲一白　小成に安んじ易くして細心にとぼしき日なり
▲二黑　文書は餘程注意せざれば疑ひを殘すことあり
▲三碧　小利に弦みて大勢を誤ることあり出納注意
▲四綠　基礎を固め捗らぬとも粘り強くするが吉
▲五黃　思はず知らず無理の生ずる日注意すべし
▲六白　正しき道に依れば何事も通達する强運の日
▲七赤　商事は目上に謀りて遠算なき樣注意すべし
▲八白　平和を新たれば無事なれども進展は望めぬ日
▲九紫　待ちに待ちたる甘露の日和となるべき吉日

講談

幕末秘帖 狂恋乱心 （42）

渡邊默禪作　宮野歌春畫

「ねゝ、頭、可いでせう。」異存はないでせう」

また虎はその側から疊みかけて

「勘は取り樣でねえ、お妾さんと言や何だか變な調へなけど、內儀さんになる間そのお稽古を爲てるんだ思へ別をみがりやしないわね。一生日陰者で暮すといふ譯ぢやアなし、只だ二月か三月外に圍はれてゐるだけの事だもの密としときやア誰アれも氣づきやアしないよ、な音さんと聞く人があつたら親類の方へ行儀見習の爲めやつとさました言へばそれで濟むぢやアないか」

と巧に囀る

「むゝ成程なあ」音の心は動いた

「ね、そうだらう、きいちやんに取つたら大變な出世なんだよ、先方は前麹町でも一か二といふ身代でさ金は滿と有りの、土藏は五戸前、間口十間の店を踏まへてゐる大店だらう、其處のお嫁さんになるんだものえらい果報の玉の輿だらうぢやないか、チウ〱鼠啼をして三遍廻つてシャチホコ立をしてもいゝくらゐなもんだ」

「お虎さん」と音は急に笑顔になつて

「ぢやア何だ俺だけは別に異存は無ねといふことに爲ようから、宜しくお頼み申しやす」と膝に手を置いた

「何、お前だけ?だつてお前さんのお嫁に行くんぢやないよ一人承知ぢやア困るぢやないか」

「む、そう〱」とあたまを掻いて

「娘もヨモヤ彼是言ふやうなことはあるまいと思ふんだ、何故といふに實はソレ梅ッて和野郎が死亡つたゝんだから、最う男の……」

「ね、梅?」と虎に聞とがめられて

「なあに、ソノーソレー、うかゐやうに話を纏めて御挨拶に出やすつてねこゝさと慌てゝ言濁した

に君は二人の話をにふいと座を立つて何處かへ影を消した。臺所口から躑う家へでも行づてゐるのか思つて君は蓬萊に呼んだが返辭がなかつた。

答がないはず、彼はこつそり二階へ上つてつゞらの下へ突俯したなりに心ゆくばかり泣いてゐたのである

神保家の仲間頭與平は新徵組の屋敷前で音五郎に別れ、大急ぎで歸邸した

雪江は此日何故か例になくそわ〱して頻りに與平の歸るのを待つてゐたが案より秘密の質事、公然に與平を呼ぶ譯にはいかぬ、で躊躇して牒し合せてある如く、日の暮方に奥庭の仕切口に行て見ると、人目だゝぬやう垣の上に引かけてある小風呂敷包、それが與平の復命なので中には梅からの返辭が這入つてゐる筈なのだ

惰は轟く胸、急いでそれを取つて袂に隱して、自分の部屋に復つた此の部屋には腰元仲間が三人許り雜居である

圍行燈の灯を掻き立てゝまづ其前に坐り込んだ。而して袂の中から窃と小風呂敷包を取り出して膝近くにそれを置いた。見ると結び目を固く縛つて、ご[illegible]りで封をしてある。

廣告

平町南町 大和田醫院 電話一七〇番

外科新設
外科專門 部長 藤本順 診療開始
產科 婦人科 院長 木村寅次郎 從前通り診療
平町新川町 木村醫院 電話一六四番

平町紺屋町 吉田眼科醫院

開店御披露
氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々是非一度御來店の上御批評を
經營は大塚肉店故原料豐富、是非一度御試食の程を
女給數名入用
カフヱー幸樂 平町六丁目 電五三九番

教授
裁縫 奥田式及び水引細工
華道 古遠州生花、小原流盛花
茶の湯 裏千家
平町白銀町（平劇場前） 高橋光春 電話六三八番

內科、小兒科（院長每日診察） 院長 醫學博士 難波睦
內科部長 粟野省三
外科一般花柳病科 外科部長 醫學士 氏家懲介
產婦人科 產婦人科部長 醫學士 五十嵐雄二
藥局 藥局長 吉本孝平
本院主事 賀澤忠治 電話七二番
獨逸シーメンス、ユニバーサル、ヘリオドル 最新X光線裝置
五月十日ヨリ診療開始 主任 醫學博士 難波睦
入院自炊ノ便アリ
看護婦募集
共濟病院 平町 電話六四一番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり或けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社 平出張所 電話六〇三番 五四一番

內科 小兒科 皮膚科 花柳科
平町舊城跡（城山） 青沼醫院 醫學士 青沼淡夫 電話四〇三番

平町田町 高久病院 電話五一三番
醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣 並に部分品提供
當分の間奉仕的破格値段 三球セット取付共
A 百貳拾五圓
B 百圓
C 七拾圓
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町 日東商會 電話四二八番

醸造元
福島縣平町 山崎合名會社 電話（營業部一〇番 醸造工場二七番） 振替東京一九七五五番
東京支店 上野車坂町四三 電話長下谷五七三三番 振替東京六八三三二番

醫院開始
內臟外科 外科一般 花柳病科
平町田町大通り 安齋外科醫院 電話四三六番

批難の聲を浴び 署長の堅い決意
けふ被害者の臨床訊問 平署の行通取締

平町地方に於ける自動車増加に伴ひ行通事故の續發は殆むど際限なく全く安心して路も通れぬ有様となり一般地方民は之れが取締の任にある平署に對し漸く批難の聲を高めるに至つたので猪狩署長は署長會議から歸署すると同時に斷然自動車事故の

未前防止と之れが嚴重な取締りをなすべく決意し夫れ〴〵訓示する處があつた。即ち不可抗力因る事故は殆むど稀れにして其の多くは運轉手の不注意による場合が多く殊に之れ等運轉手の性行等について嚴重調査の上營業主に向つて不品行運轉手を馘首する様命じ直接、間接に行通事故の防止を計る事となつたが其の第一着手として去る十一日三丁目路上で尼子自動車運轉手古川勇の爲めに

轢き倒され目下鎌田町金成醫院に入院中の水戸時勤務車掌矢口常松(四〇)に對し十五日平署伊藤警部補は臨床訊問をなしその上で運轉手が不注意によるものと判明せば苛責なき處罰に處すことゝなつたが平署が後果してどの程度まで取締りの徹底を期し得るか一般は注意眼を挪つてゐる

平商業生の 二箭山征復
アルコー會活躍

平商業學校では生徒の心身鍛練を目的に本春以來アルコー會を組織し隨時郡下各方面の山嶽に登山して來たが十五日同校生二十名は武川教師の引卒にて午前六時同校出發小川村小川郷二の箭山に登山し即日歸平した

噸數金額と共に 約半減の悲境
大正九年が最高潮で 苦しい常磐炭礦

常磐地方各炭礦が不況の結果滯納かちなので平稅務署では其の原因を調査したが炭礦の景氣が財界と密接な關係にあるか否かを最近十ケ年間に於ける出炭重量價額を調査したそれに依ると大正九年の好況時には三百四十萬噸四千萬圓條となつてゐたが大正十年の不況には反動的に低落し一千五十萬圓に低下してゐる、その後は引續き一千萬圓臺で昭和元年の經濟界動搖の餘波で元年には一千五百萬圓、二年には一千七百萬で本年は之よりも減少してゐると見られてゐる次にその統計を示すと左の如くでこの統計に依つて炭礦と一般經濟界の關係が密接なものである事が判明する（以下噸數は千噸金額は千圓單位）

	數量	金額
大正六年	一六、	二八二七〇
七年	三三七八、	二〇八五〇
八年	三三四五、	二八〇二九
九年	三四八六、	四〇二三四
十年	一八二二、	一五四八七
十一年	三三八二、	二〇七八一
十二年	三二〇〇、	一八二三五
十三年	三三七七、	一八九二一
十四年	三三七四、	一七〇一九
昭和元年	三三六三、	一五八〇三
二年	三三四六、	一七一六八

小名濱港の 土砂浚渫
更に豫算追加

小名濱築港内船溜は去る七月三十日の暴風雨で干潮面まで約九百坪土砂埋沒漁船の船付に支障を來したため中土木監督所では浚渫したが小名濱漁撈組合でも人夫を出動せしめ手掘りを以て土砂を港外に搬出した結果最近約三分の一は浚渫を終り漁船航行には支障なきに到つたが更に六千餘圓の浚渫豫算を追加近く縣參事會に提案する筈である

本縣巡査試驗 本縣巡査試驗は十五日午前十時より平署樓上に於て執行したが試驗官は縣巡査教習所教官星警部にして受驗生三十名であつた

石城 社寺を探りて（二）
平 子鍬倉神社

△子鍬倉神社

縣社子鍬倉神社は平町字揚土臺にあり、延喜式の官社にして稻倉魂命を祭る、明治五年式内なりとの故を以て飯野八幡神社を超えて縣社々格に陞せらる、古は磐城四郡の總鎭守と稱し岩城氏以前代々の城主崇敬最も厚く千餘貫文の神田を寄附せらる、是れより先き醍醐天皇延喜五年左大臣藤原忠平延喜式を撰す、此式に列するの神社は皆延喜以前の勸請にして其の古社たることは固より論を俟たず我が磐城、神社式内に入るもの七座あり、本社はその一なり又大や城三社の一に居る、その勸請たるや歷代城主の崇敬する處にして神社靈顯の顯著なる祭祀の莊嚴なる士民渇仰せさるなし、而して一舊記の有せざる所以ぞや、鳥居氏の此地を領するや絶えて敬神の念なく、千年古祠も之が爲めに一時廢絶せしを以てなり、本社は古來櫻岡の高所にあり北方の眺望大に富む、鳥居氏新城を築くに方り、士邸を此處に定め社地を兼併し神社をその邸内に放棄す、幾もなく鳥居氏封を山形に移さる、内藤氏來り代り移轉紛擾の際固より傳承に由なく後に來る者何の社たるを辯ずる能はず、その士邸内にあるを以て前代何人か氏神と爲し、その稽を怠り荒廢に委するに至る、その後内藤氏古社の湮滅を慨き有司に命じ偏く封内を搜索し遂ひに本社の遺址を審かにするを得たり、然して揚土臺の地をトし即ち今の處に神廟を新築せしなり、神殿、拜殿神樂共に天保二年五月廿六日燒失、今の神殿は嘉永六年五月の改築に係る、境内の坪數千四百九十三坪、氏子七百九十二戸を有す、地は一堀の岡阜にし、平町脚下にありて眺望最も佳なり、樹木鬱蒼して社殿を圍繞し殊に多く櫻樹を植ゑたれば花時の風景愛すべし、祭禮は毎年五月八日之れを行ひ神輿の渡御がある、先年社殿の大新築を行ひ氏子よりの寄附金二萬七千餘圓を以て目下工事中にあり竣工の上は官幣社の指定を目的に各氏子等共力してゐる

△熊野神社

縣社熊野神社は錦村大倉にあり、元菊田郡總社に推され近世には神領朱印田四十石を有せり、伊邪那岐尊速玉男命、豫母津事解男命を併せ祀る、社紀に曰く[illegible]二年六月七日紀州熊野神宮の別當日下大膳といふもの、その分靈を奉じて當國に來り、之を菊田莊、大島の郷に鎭座し、以て菊田總鎭守となすと、當時平城天皇勅願所となり爾來毎年例祭六月十五日、勅使の參向ありしが中古廢典に屬せりと、佐竹氏當治の時文祿年間二百廿石の神領を受け尋て徳川幕府に及むも慶長以來四十石の祀田を有し舊菊田七十三ケ村に神符を頒つその祭典古式多く就中七歲未滿の小兒に束帶せしめ之を馬上に奉じて勅使に擬するが如きは他に類例を見ざる所なり而して社格は舊と鄕社なりしを明治三十四年十二月之を縣社に昇格せらる、社司山田氏は岩城氏の一族にして天文年間より累世相承け家に岩城重隆の手翰及系譜を藏す。

各銀行の整理で 土地の移動頻繁
小作人は移住の外なし 石城郡下の現況

石城郡所在各銀行は目下悉く整理時代に入つた爲め地主中には土地を手放す者頗る多く而も其の土地を買入れる者の多くは自作農である結果小作人にして小作地を失ふ者續々としてあらはれ之れ等土地を失つた小作人は全く生活の方向をも失ひ移住を希望してゐる者が頗る多いが多年土着してゐた農民には移住の方法さへ判らず困り拔いた結果縣その筋に移住の斡旋方を依賴して來る者が相當數に上りこれが善處方法を研究してゐるが今の分に進むときは小作人がドシ〳〵他に移住する結果となり社會問題として相當重大視されてゐる

姦夫奸婦の 駈落
植田署で搜査

石城郡上遠野石城郡上遠野村瀧字島廻木炭商稻毛侑吾(四三)は妻タケとの間に五人の子まである身でこれも又同村字柿ノ澤荷馬車挽瀨谷徳五郎妻アキ(四〇)といふ三人の子ある女と昨年十一月頃から不義を續けてゐたが最近では益無遠慮の狀態となつたので世間の風評と共に兩人の配遇の知るところとなつたので二人は八日夜手を携へて行衛をくらまし、双方の配遇者から植田署へ搜索を出願した

墹先生の 復職運動
父兄連判陳情

石城郡平町第二小學校墹義男訓導は暑中休暇中教へ子の少女を學校の宿直室に同宿せしめた上醜交があつたと騒がれ辭職したが[illegible]の教へ子の父兄五十餘名が連署して復職方の歎願書を加勢知事に提出した理由は同訓導は模範的の青年であつて子供が學校から歸ると常に同先生をほめてゐた同氏に限つて醜交するが如きことは絶對にないといふのであるが右につき縣學務當局では「調査した處によれば墹君は教子と醜交があつたやうなことはないらしいが兎に角暑中休暇中に宿直に同宿したことは事實であり同訓導もその責任を負うて自ら辭職したのだから今更復職はむづかしい」と

事業と人（七）…… 衆望此處に在り
前途を望まるる大谷氏父子

國府田直良氏

平町の生むだ天才的藝術家赤堀新平氏を實弟に持つ平町鍛冶町國府田直良氏は當代稀れに見る温厚な人格者である、辨言實行を眞條としその行ふ所かならず世人の意表に出てゝゐる、藝妓置屋「玉川」の主人公たる氏は組合行司の重任に在り巨額の組合金の收支を掌り寸暇なき繁忙のうちに一面鍛冶町區長の榮職に在り熱心町治の運行を援けてゐるよく新時代の趨勢を知り時潮に竿して進む氏の言動は常に平和にして進取の氣が横溢してゐる、平町治の爲めには常に遠大なる抱負を以て臨み、いやしくも私の爲めに公事を忘れる如きことの絶對に出來得ないのが氏の生命であり徳となつて現はれる所以である、既に其の手腕と實力を認められた氏は來る可き町議の改選には地元鍛冶町區民は勿論多數[illegible]居るも町會議員として推される順席となつてゐる、謙讓の美徳に富むだ氏は絶對自ら進む處にあらざる可きも既に與論は氏の如き有力且つ熱心なる士を要求してゐるから、何れは出馬の餘儀なきに至るであらうけれども若し氏にして一と度び蹶起せば衆望の聚る素より當然の事にして將來益々多望ならんとする平町政に氏等の如き人を迎へるを得ることは以て町民の幸福であり、氏が常に盡力される愛町心への酬けであると見る[illegible]出るであらう

大谷武雄氏

平町信用組合長として永年の功勞あり實に幾多の難關と苦心を切り拔けて同組合の今日あらしめた大谷久藏氏の長息大谷武雄氏は思想堅固の青年紳士である、實に公子然たる彼の風貌の示す如く氏の人格は常に玉の如き明るさと透徹せる智才の持主である「大谷時計病院」の廣告で有名な大谷時計洋品店の若主人である氏は熱心な斯道の研究家にして常に「良品廉價」をモットーに店にはに顧客の山を築き盛況を呈してゐる、平郵便局前新の洋館の店頭には常に嶄新確實な時計を洋品が然かも他店の絶對追隨を許さざる廉價を以て提供されてゐる、嚴父久藏氏は平町會議員その他の榮職にあり東奔西走席温る暇なき活動をつづけてゐる爲め令息武雄氏の手腕は未だ表面に現はれないが平町の中堅として實力ある氏の將來には幾多の望みを囑されてゐる

御大典記念事業に 道と河の改修
全町擧げて奉祝を 新興の小名濱町

石城郡小名濱町では去十二日今秋の御大典記念事業及び同奉祝に關し協議を行つたが記念事業には同町北裏の小名川筋の古川を四間餘の川幅にひろめ河底をさらつて延長約三百間の兩側に幅三間の堤防を築き西側に四間道路を開設して一千本に近い

櫻樹を植ることになつた從來同河川は降雨時でなければ流水が少なく附近に於ける殆ど塵芥捨場の如きもので不潔甚だしく同計畫は町内の美化を兼ねたので之れと同時に同町字林の上の町有地に塵芥棄場を設置し公役夫を以て燻炭肥料を造らせることを共に協議されたが右事業に要する工費約三千圓は全部町内各戸の勞力負擔にきまつた次に

奉祝は大典當日全町を裝飾して祝燈を掲げ小學生の旗行例（夜は提灯行列）其他青年團等も夫々の催しをなすと

死場所を探して 平から東京へ
手に負はぬ若い女 今度は荒川で助る

石城郡泉村泉齋藤幸妹藤枝(二三)は都會病に罹つて上京し小石川の某看護婦會に入會したが少しく低腦のため數回受驗しても及第出來ぬので歸鄕を進められ六日一切荷物を携へ上野驛より出發したが泉驛に來ても下車せず平町まで乘越し同夜は知人宅に泊り種々身の上話をした末親へ申譯なしと自殺を決し翌七日平町より「死んで御詫します」といふ意味の遺書を兩親に送つたので大騒ぎとなり八方搜索中十二日東京王子警察署より藤枝が荒川に投身自殺を圖つたのを救助され目下保護中に就き引取りに出頭する樣通知があつた藤枝は遺書を郵送して附近に死場を求めたが死後れて再び上京友人宅などに寄食しては毎日死に場所を探してゐたものであると

神谷村が平町に 合併の秋波を送る
將來市制の準備にもと 有力な輿論化す

石城郡神谷村に於ける本年度戸數割賦課額は僅か四百七十戸に對し二萬九千三百九十七圓にして此の一戸當り賦課額は二十二圓二十一錢にして平町の一戸當り賦課額に比し約二圓多く毎年村稅紛擾を起してゐる始末なので或一部有志間に平町と隣接せる關係上同町と合併し將來市制の實現を促進させたいとの說漸く有力となつて居る

夏服着用延期
連日の暑さに耐ねず 平署夏敗の事

平町地方に於ける兩三日來の炎暑は實にすばらしいものゝ下季節は既に秋に入つたが今日尚九十度以上に突破しどうやら夏に若返つたかの感がある◎署では係官の夏服着用が今十五日迄なるも明十六日から冬服を着用せられてはそれこそ執務も遲遲も出來ないとあり來る廿日迄夏服着用を延期する事となつた

商業校友會
御大典記念に 月次に開く

平町立商業學校では今回吉田校長發案に基き御大典記念事業として毎月の十日午後六時より[illegible]銀行樓上に校友會例會を開き校友間相互の親睦を計るは勿論社會問題及び地方經濟問題等に就き討議研究をなし一定見を得た時之れを發表して地方的に貢獻する事となり既に三回の會合を重ねたが成績極めて優良で御大典記念事業としては頗る有意義な試みであると推賞されてる

錦の紫雲英 錦村農會にては穗積技手の指導により紫雲英共同購入があつたが總石數八石五斗である

暑さは當分續く
小名濱測候所發表

暑さも寒さも彼岸までといふのに秋の彼岸が近いきのふけふがこの暑さ土用再來のやうだが、七月下旬から八月一ぱい、あの涼しさで半作を唱へられたのに近ごろの暑さでグウッと見直したとの評判である小名濱測候所に問へば北太平洋一帶の高氣壓がクサビ型に突き出した頭が本縣一帶を包んでゐるため毎日の晴天つゞきた陰でこの温度がつゞくのだと言つてゐるなほ例年なら北支那に高氣壓が起つて日本が涼しい西風に包まれるのだが本年は北支那に高氣壓が發達せぬため依然日本は太平洋の高氣壓に抱かれてゐる涼しくなるためには颱風でも吹いて北支那に高氣壓が動かぬと駄目だらうと言つてゐる

本郡農會で 綠肥獎勵
優良種を購入

石城郡農會では目下紫英草播種時に際し各方面より優良種子を購入希望者に實費配布をなしつゝあるが同農會調査に依る昨年度郡下作付反別は四百四十八町八反歩にして之れが收穫貫數は二百四十一萬四千七十九貫と云ふ巨額に達し尚作付反別の最も多きは入遠野村の六十七町歩最も少なきは高久村の二反步なるが地質其の他の關係から全然作付なさぬは豐間、鹿島、小名濱等なので同農會では今後此等町村に對して充分調査

火葬場入札
けふ落札者決る

平町々營火葬場は愈々工費八千圓を以つて建設する事に決定したが十五日午前齊場上屋建築の入札を行つた結果千六百圓を以つて平町鈴木常吉、辻金太郎兩氏に落札した

三人強盜送檢 昨朝平署に逮捕された三人組の強盜朝鮮人任甲一(二〇)外二名は愈よ同署の取調を決し昨十四日平檢事局に送致された

電話 高價買入
姓名在社
電話五六四へ

記者募集
一、年齢 二十二才以上三十五六才まで（成るべく妻帶者）
一、學業 中學三年修業程度（經驗の有無を問はず）
右至急募集す、希望者は履歷書持參本人午前中來社あれ、月五十圓を給す
委細面談
磐城新聞社

平劇場に若菊

女流浪界の巨頭廣澤若菊一行は十六日より平劇場で蓋を明けることゝなつたが一行は女許りの美人揃へで座長は長講二席を詠むと

穀檢の成績
平檢査所の去月

平穀物檢査所に於ける去る八月中の檢査米は粳玄米白九十二俵、内三等米五十二俵、四等九十五俵、五等八俵、等外三十七俵、同白米一千四百六十五俵、四等百三十九俵、五等百十三俵、等外千二百十三俵、糯白米三十五俵、合格歩合は粳玄米八十五、同白米七十七、糯米三〇の割合であつた

青年幹部慰勞

石城郡錦村青年團では過般大字分團長副分團長等十數名荒井團長及び吉田專修學校長に引率され東京方面へ見學旅行を爲したが同村長金成通氏は其の勞を慰するため十三日同一行を招待し慰勞の宴を張つた